

梅香苑区自治会

梅香苑区は、市の東部・高尾山南側の低丘陵にある住宅街で、昭和40年代までは、住宅もなく山林と田畑が続いていました。その後、昭和46(1971)年から昭和50(1975)年にかけて宅地開発と国道3号線バイパスの建設が行われ、現在のような住宅地となりました。その後、昭和53(1978)年に高雄区から分離して、梅香苑区ができました。

梅香苑区自治会では、「こころふれあう安全、安心のまちづくり」を基本理念として、住民相互の親睦と融和、生活向上と福祉増進をもって、安全・安心のまちづくりを推進し、区域の発展を図ることを目的とし、様々な事業を行っています。



<育成活動内容>

自治会は、子どもたちの健やかな成長を願い、幼い頃の故郷の思い出を残してやりたいという先人たちの子どもみこしに込められた思いを、子ども会や住民と共に、子どもたちに伝えていきます。



太宰府市民遺産とは・・・

市民の一人ひとりが、大切に思うモノ・コト(文化遺産)。これを将来に伝えたいと思う物語と、それを守り育てる活動に対して、多くの市民が太宰府にとって大切だと納得したものです。



太宰府市民遺産

第14号

梅香苑夏まつり 子どもみこし



梅香苑夏まつり子どもみこし



太宰府市民遺産ロゴマーク

太宰府市民遺産：第14号

認定：平成30年9月19日

景観・市民遺産育成団体：梅香苑区自治会

発行：太宰府市景観・市民遺産会議

発行日：平成31年2月28日

<http://市民遺産.jp>



梅香苑区自治会

行事のはじまり

梅香苑区は昭和50(1975)年代前半頃に開発された新興住宅地で、初めは住民同士の繋がりがほとんどない状態でした。公民館が新設されたことをきっかけに、地域が一体となり、様々な行事が計画されるようになりました。そして昭和57(1982)年頃、子どもたちに故郷の思い出を残してやりたいという思いから「子どもみこし」が始まりました。

当初の子どもみこしは樽をのせた質素なみこしで、太鼓や法被も太宰府天満宮から借りていました。その後は、子どもたちのためにと、地域の人たちで、みこしを手作りし、紅白の曳き綱を編み、太鼓や法被なども揃えていきました。平成29(2017)年には、自慢のみこしも傷んできたため、地域の人たちの協力により、台車を新設し、みこしも修復しました。

行事の流れ

子どもみこしは、毎年8月第一土曜日に夏まつりの午前中の行事として実施され、午前10時にみこしを台車に乗せ、梅香苑公民館をスタートします。鐘、太鼓、みこしと並び、大うちわ、旗を持ち、「わっしょい」と大きな声をかけ、沿道から力水を浴びながら、団地内の上り下りの坂道を元気よく回っていきます。途中の公園でひと休みしながら、約1時間をかけて区内を練り歩き、公民館に戻ってきます。コースについては、その年に参加する子どもの居住地をできるだけ回れるようにと毎年検討し決定されています。到着した後は、子どもたちにカキ水やジュースが振る舞われます。暑さを乗り越え、満面の笑顔でカキ水を食べる子どもたちの無邪気な姿に、地域の大人たちは元気をもらっています。

平成30(2018)年は梅香苑区ができて40周年ということで、夏祭り会場の梅香苑第一公園をスタート・ゴールとするコース設定を行いました。8月4日の夏祭り当日は快晴で、連日35℃前後の猛暑が続いたこともあり、子どもたちの体調を考慮し、距離を短くして実施されましたが、子どもたちは、力水を浴びながら、元気いっぱい練り歩きました。

子どもみこしの様子

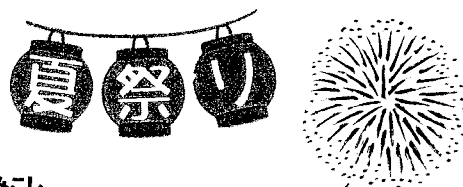


平成30年の子どもみこしの様子



地域の人たちで手作りされる「子どもみこし」

梅香苑



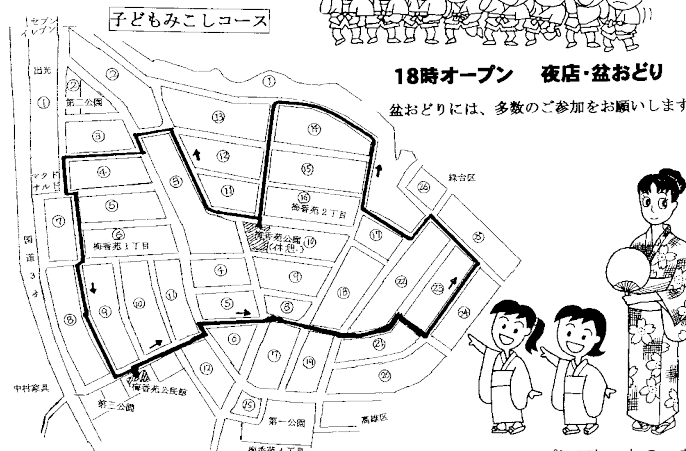
10時スタート 子どもみこし

子どもたちが、みこしを曳いて町内を巡行します。勢い水をかけて子どもたちに元気を与えてください。



18時オープン 夜店・盆おどり

盆おどりには、多数のご参加をお願いします。



パンフレットの一部分

子どもみこしは、かつて世話役と子どもたちだけで行われていましたが、現在は保護者の参加も多くなり、子どもたちと一緒に掛け声をかけ力水を浴び、一生懸命子どもを励ましている姿がみられるようになりました。

子どもと保護者そして地域が一体となって行われる子どもみこしは、梅香苑区の伝統行事となってきました。

このように地域の人たちの思いの中、梅香苑区で育った子どもたちは、現在は大人となり、全国で頑張っていることでしょう。そして、毎年夏が来ると、幼い頃みこしを曳いて町内を回ったという、ふるさとの良き思い出を必ずや思い出してくれていると願っています。